

厚生労働科学研究費補助金（地球規模保健課題推進研究事業）
「各国の国際保健政策の分析を踏まえた、日本の国際保健分野への戦略的・
効果的な介入の開発研究」（H30-地球規模-一般-001）

平成 30 年度総括研究報告書

総括研究報告書

主任研究 渋谷健司 東京大学大学院医学系研究科 国際保健政策学教室 教授

研究要旨

昨今、国際社会の枠組みが激変する中で、グローバル・ヘルスも大きく変化している。特に、グローバル・ヘルス政策への米国の影響力に陰りが見え、さらに、中国の「一帯一路」政策においても保健医療は重要な要素となり、グローバル・ヘルスは国際政治色をさらに色濃く反映したものと変化している。今後は、従来の枠組みにとらわれない、多種多様なプラットフォームにおける政策議論についてより詳細な分析を進めていくことが求められている。本研究では、我が国及び民間セクターにおける援助資金動向の分析・整理を行なった。国際保健分野における政策的動向を評価するうえで重要な指標となるのが、その国の国際保健分野における資金の流れである。具体的には経年的に国際保健分野への投資額がどのように変化したか、どのような国・地域、分野への投資が行われているか、どのような組織（二国間協力、多国籍機関等）を經由して資金を投入しているか等である。平成 30 年は、国立国際医療研究センター(NCGM) 国際医療協力局 グローバルヘルス政策研究センター(iGHP)及びゲイツ財団との協力のもと、2012 年から 2016 年における我が国の国際保健分野における資金動向に関する分析を行い、その成果についてはすでに NCGM のホームページに公開し広く一般の方がアクセスできるようになっている。今年度は、昨年 ODA（政府開発援助資金）に加えて多国籍機関へのノンイヤーマーク拠出金の分析を新たに実施し、より包括的な資金動向の推移を分析した。それらについては学会発表し、論文は 2020 年度に掲載が確定している。また、2019 年 G20 や TICAD に向けて国際保健の主要課題の中でも特に Health Security を取り上げ、その政策的動向について分析を行い、G20 岡山保健大臣会合にて同テーマのシミュレーションエクササイズ資料開発を行った。この資料は広くアクセスできるように当研究室ホームページにて公開されている。

これらの研究から得られた知見は、日本で開催される 2019 年 G20、アフリカ開発会議（TICAD）や 2020 年栄養サミットなど、我が国のグローバル・ヘルスにおけるプレゼンスと知的貢献の強化に直接資するものである。

A．研究目的

我が国は、2016年に日本で開催されたG7伊勢志摩サミットでも保健を重要議題の一つとして取り上げ、また2017年にUHCフォーラムを開催する等、ここ数年で我が国のグローバル・ヘルス分野における存在感は増している。

しかし、昨今、国際社会の枠組みが激変する中で、グローバル・ヘルスも大きく変化している。特に、グローバル・ヘルス政策への米国の影響力に陰りが見え、さらに、中国の「一帯一路」政策においても保健医療は重要な要素となり、グローバル・ヘルスは国際政治色をさらに色濃く反映したものと変化している。今後は、従来の枠組みにとらわれない、多種多様なプラットフォームにおける政策議論についてより詳細な分析を進めていくことが求められている。しかし、これまで、諸外国における国際保健分野での政策的動向について、包括的かつ系統的な枠組みに基づいた検証がなされていない。本研究では、諸外国及び民間セクター・市民社会における政策・資金援助動向について詳細な検証を行い、G20やG7等の各種会合において我が国が効果的かつ効率的に貢献する方策について提案を行う。本研究は、G7伊勢志摩サミットに向けて我が国の国際保健外交政策の政策指針をまとめた実績のある研究者が中心となり実施されるため、研究成果が確実に期待できる。

上記目的を視野に平成31年度は以下3つの研究を実施する。

- 1) 我が国における援助資金動向の整理
- 2) G20主要課題における最近の議論の整理
- 3) ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）Dayにおけるサイドイベントの実施

本研究では、政策分析と定量的分析の2つのアプローチを有機的に用いて、諸外国及びプライベートセクターにおける政策・資金援助動向について検証を行い、G7/G20やTICAD等の各種会合において我が国が効果的かつ効率的に貢献する方策及び政策について提案を行う。被援助国保健省を中心に我が国の援助実績に関するヒアリングを通じて我が国におけるグローバル・ヘルス分野における貢献についても包括的に検証を行うことで、我が国の比較優位性・弱点についても明らかにし、戦略的かつ効果的な日本のグローバル・ヘルス分野への貢献を実施できる基盤作りを行うとともに、ハイインパクト・ジャーナルへの論文準備などを通して人的資源の政策形成能力強化の機会を提供する。公開文書や関係者へのインタビューを中心に分析し、過去の討議内容の詳細な分析や背景情報の検討を通じて効果的な介入方法を提案するとともに、その得られた成果については学術論文への公表、国際会議での発表を行い、広く諸外国に広める。また、G7/G20やTICAD等の各種会合における準備プロセスに於いて、必要に応じ技術支援も提供する。

B．研究方法

平成 31 年度は主に以下を実施する。

1. 班会議（5 月：東京）：3 年間の総目標と年度別の研究目標、および研究者の役割分担と連携を確認する。2. 各分担研究者・研究協力者の準備と研究実施（5 - 10 月）：研究課題について、包括的な実証分析のために、関連するデータの収集を実施。具体的には、各国政府が発表する国際保健関連の戦略やイニシアチブ、毎年開催される G7/G20（及び関連する大臣会合）TICAD、ASEAN 会合等における各国の発言・議事録及び関連資料。同時に、分析方法の検討を行う。これらデータ及び方法論をもとに本研究班の統括のもとに分析を進める。また、これまでの我が国におけるグローバル・ヘルス分野における貢献についても包括的検証を行い、その比較優位性並びに弱点についても抽出する。具体的には、過去発表された各種政府イニシアチブ、G7/G20 や TICAD 等国际会議における我が国の発言や議事録等の関連資料の分析を行う。3. 被援助国でのヒアリング（4-5 月）：アフリカの被援助国にて、日本を含めた主要ドナーの援助状況に関してヒアリングを実施する。4. 関連会合における技術支援：必要に応じて、G7, G20 等の関連会合における準備プロセスに於いて必要な技術支援を提供する。

C . 研究結果

1) 我が国における資金援助動向の整理

国際保健分野における政策的動向を評価するうえで重要な指標となるのが、その国の国際保健分野における資金の流れである。具体的には経年的に国際保健分野への投資額がどのように変化したか、どのような国・地域、分野への投資が行われているか、どのような組織（二国間協力、多国籍機関等）を経由して資金を投入しているか等である。国立国際医療研究センター(NCGM) 国際医療協力局 グローバルヘルス政策研究センター（iGHP）及びゲイツ財団との協力のもと平成 30 年に 2012 年から 2016 年ににおける我が国の国際保健分野資金動向に関する分析を行った。その成果については NCGM のホームページに公開し広く一般の方がアクセスできるようになっている。平成 31 年度では、昨年分析した ODA（政府開発援助資金）に加えて多国籍機関へのノンイヤーマーク拠出金の分析を新たに実施し、より包括的な資金動向の推移を分析した。

2) G20 主要課題における最近の議論の整理

2019 年に開催された G20 大阪サミットで主要保健課題として取り上げられた Health Security、AMR、UHC に関して研究を実施している。中でも、Health Security に関しては 2018 年からコンゴ民主主義共和国で発生しているエボラを事例とし、関係諸機関へのインタビューを実施、その結果については厚生労働省内で勉強会を実施して共有し、来年度中に論文として公表予定である。また、G20 岡山保健大臣会合で実施されたパンデミックシミュレーションエクササイズにおける課題設定を含め資料開発を当教室が担当した（テーマはマَسギャザリングにおけるパンデミック）。当日使用した資料は当教室のホームページにて公表している。

3) UHC Day イベントの開催

2016年 G7 伊勢志摩サミットでも主要議題として取り上げ、その後も我が国の国際保健政策の中心である UHC (ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ) に関連して、2019年 12月に UHC Day 記念イベントを実施。日本国内で脆弱者への医療提供に従事している有識者や当事者を招聘し一般向けの公開イベントを実施、当日は約 100 名が参加した。

D. 考察

本研究の期待される成果としては主に次の 3 点が考えられる。1) グローバル・ヘルス分野における、我が国の政策形成能力と知的貢献 (thought leadership) の強化に直接的に資する：激変する国際保健情勢を分析し我が国のより良い介入方法に関して提言を行うことで、日本のグローバル・ヘルス分野への貢献がより戦略的かつ効果的なものとなることが期待できる。特に、我が国の比較優位性・弱点についても明らかにするとともに、人的資源の政策形成能力強化の機会を提供する。2) 2019年 G20 や 2020年 栄養サミット等においてグローバル・ヘルスのモメンタムの維持並びに我が国のプレゼンスの向上に資する：2016年 G7 伊勢志摩サミット、G7 神戸保健大臣会合、TICAD 並びに 2017年 UHC フォーラム等、近年我が国のグローバル・ヘルス分野におけるプレゼンスは増している。本研究を通じて、G7 や 2019年 G20 及び 2020 年 栄養サミットなどにおいて我が国が引き続きグローバル・ヘルスを牽引する存在であることが可能となる。3) グローバル・ヘルスと国内医療政策の整合性を図る：2015年に発表された「保健医療 2035」の中でも、3つの柱の一つとして我が国がグローバル・ヘルスを牽引する存在となることが目標として掲げられているが、本研究はそのビジョンにも添うものである。

なお、本研究の成果は報告者や学術誌のみならず、各種国際会議などにおいて報告し、成果を積極的に発表して行く予定である。

E. 結論

我が国は、2016年に日本で開催された G7 伊勢志摩サミットでも保健を重要議題の一つとして取り上げ、また 2017年に UHC フォーラムを開催する等、ここ数年で我が国のグローバル・ヘルス分野における存在感は増している。しかし、昨今、国際社会の枠組みが激変する中で、グローバル・ヘルスも大きく変化している。今後は、従来の枠組みにとらわれない、多種多様なプラットフォームにおける政策議論についてより詳細な分析を進めていくことが求められている。2019年の G20、TICAD、2020年の東京オリンピック・パラリンピック、栄養サミット我が国開催の主要国際イベントが控えている中で、G7 等の伝統的ドナーだけでなく、G20 や民間セクター等多様なアクターの援助動向を多角的に分析していくことで、我が国が効果的かつ効率的に国際保健に貢献できる方策について提言を継続していく。

F．健康危険情報

特になし

G．研究発表

1. 論文発表

特になし

2. 学会発表

Maaya Kita Sugai, Shuhei Nomura, Haruka Sakamoto, Keiko Maruyama-Sakurai, Haruyo Nakamura, Yoko Muto, Sangnim Lee, Anna Kubota, Aya Ishizuka, Manabu Sumi, Misaki Kawaguchi, Hidechika Akashi, Eiji Hinoshita, Hajime Inoue, Kenji Shibuya. **Japan's development assistance for health: a temporal, geographical, and focus-specific evaluation of bilateral and multilateral financial contributions, launching the Japan Tracker**. 第 34 回日本国際保健医療学会. 三重. 2019 年 12 月.

H．知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

特になし

2. 実用新案登録

特になし

3. その他

特になし